

書 評

● 竹村 洋典 (三重大助教授・総合診療部)

内科レジデントの鉄則



編集：聖路加国際病院内科
チーフレジデント

● B5 頁 244 2006 年
定価 3,780 円(本体 3,600 円+税 5%)
[ISBN 978-4-260-00241-7]医学書院刊

研修医向けの書籍に常に目を通す私も、この本を読んだときに、思わず「ウォー」と言ってしまった。

研修医向けの書籍の大切なことの第一は、プラクティカルであることである。どんな施設の研修医たちも心のなかは不安でいっぱいある。苦しむ患者を前に知らないことがたくさんある。大学で知識は得たはずだが、頭が回らない。手も動かない。しかし一方で、医師になる以上、必要最低限のことは経験したいと思う。少なくとも誰でもが出遭うであろうコモンな問題・疾患の対処方法は知っておきたい。よい指導者がそばにいてくれたらばその対処方法に困ることはなくなるかもしれないが、いつもというわけにはいかない。そんなときに「ああ、あってくれて本当によかった！」と思えるのが、コモンな問題・疾患に対して具体的にその対処方法を教えてくれる本である。『内科レジデントの鉄則』はまさしくそのような本である。薬品名など大胆に選んでくれることに、熟考の後と自信が垣間見られて拍手を送りたくなる。

研修医向けの書籍の大切なことの第二は、卒前に学んだ知識との関連を述べていることである。

プラクティカルなマニュアル本は少なからず出版されている。しかし、研修医も月日が経つとそれらに物足りなさを感じるかもしれない。さらにマニュアル本に不安さえ感じるようになる。「このマニュアル本に人の命を預けていいのか……」誠実な研修医諸君の考えとして当然である。そんな時に、マニュアル本の内容を病態生理学的に解釈しなおして、なぜそうなのか、その理由を述べてくれる書籍を求め始める。『内科レジデントの鉄則』はまさしく、このような本でもある。その意味においては聖路加国際病院レジデントによる『内科レジデントマニュアル』を越えている、と実感した。

そして、研修医向けの書籍の大切なことの第三は、読みやすいこと。忙しい研修医は、疲れた自分の頭脳を、難解な文章の解釈に使わせたくない。メリハリのある読みやすい文章と構成は、必須といえる。本書の各「プラクティスの教訓」そしてその「鉄則」は、読者の理解をたやすくする見出しとなっている。説明についても、図、フローチャート、重要項目の箇条書きなどを頻用して記憶を助けてくれる。至れり尽くせりである。時に出てくる「もっと知りたい」は、私にとっても興味深い内容であった。

日本の研修医向けの書籍は、研修医の心をつかめない高所から、あるいは異次元からの指導であったり、また若すぎて心もとない内容であったりした。本書は、聖路加国際病院チーフレジデントの努力と自信、それに裏打ちされた誇りが根底に脈々と流れていて、読むものを惹きつける。安心して使用できる久しぶりの良書といえよう。